

平成24年度 自己評価書

学校名	和歌山市立和佐小学校
校長氏名	武本 多香子
作成日	平成25年3月1日

1 教育目標

心身ともに健康で、人間性豊かな実践力のある子どもを育てる。

2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力
重点目標【P】	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や地域及び諸団体への情報発信を積極的に行う。 保護者や地域の方の願い・重いをくみ取り、信頼される学校づくりに取り組む。 教育活動を公開すると共に、地域の教育資源を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> あらゆる活動を通して、安全で生命や人権を大切に教育に努める。 児童一人一人を大切に指導及び学級経営を行う。 地域を愛し誇りに思う心を育て、将来に夢や希望のもてる教育に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的生活習慣及び学習習慣の定着を図り、学力の向上に努める。 児童が主体的に取り組む授業をめざす。 児童一人一人の願いや思いをくみ取り、それぞれの可能性を十分にのばす教育に取り組む。

取組の状況【D】	<ul style="list-style-type: none"> 学校だよりを毎月発行し、保護者・学校関係者委員・評議員の方々に配布するとともに、市役所支所や地元郵便局・農協等にも置いていただき地域にも情報を発信した。ホームページも定期的に更新した。 保護者や地域の方の声に耳を傾け、誠意をもって対応した。 全ての学年で、地域の「自然・人・歴史・もの」とのかかわりを大切に学習の機会を多く持った。 11月には、学校と地域が合同で「防災集会」「ありがとう集会」「文化祭」「防災訓練」を実施し、多くの保護者や地域の方の参観を得ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 「安全集会」「防災集会」「避難訓練」等を計画的に実施し、自他の安全や生命の大切さを学ぶ取り組みを進めた。 一人一人の子どもたちが楽しい学校生活を過ごせるよう、「いじめアンケート」を毎学期実施し、その結果を受け学級指導や個別指導に根気よく取り組んだ。問題行動には全職員で取り組んだ。 挨拶、掃除、当番活動等、当たり前のことに真面目に取り組む態度を大切に。児童会で「あいさつ運動」に取り組んだ。 地域の特性を取り入れた体験的教育実践を行い、郷土を知り、誇りに思う心の育成に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを豊かに表現できる子の育成を目指し、「かく」活動を大切に学習に取り組んだ。 子どもたちが、分ける喜び・学ぶ楽しさを味わえる指導方法の工夫・改善に取り組み、各学年研究授業を行った。協議会では活発な意見交換ができた。 全国学力学習状況調査の結果を全教員で分析し、和佐の子どもたちの問題点が共通理解できた。その上につけて、学習タイムや和佐タイムでの具体的な取り組みを話し合うことができた。 学習環境・校内環境の整備充実に取り組んだ。
取組の成果と課題【C】	<ul style="list-style-type: none"> 地域や学校関係者委員の方々の声からはほぼ達成していると思われる。 学校だよりの発行やホームページは学校と地域・保護者を結び付ける役割を果たしているという声も聞かれるが、学校評価アンケートの「教育活動や子どもの様子を分かりやすく伝えている」という項目で「あまり思わない」「思わない」の保護者の回答が27%もあり、更に工夫し改善していく必要がある。 地域の方々とふれあい活動は好評である。放課後の子どもたちの様子を教えていただくことも多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方や保護者を招待した「ありがとう集会」では各学年心を込めて取り組み、ありがとうの気持ちを発表することができた。 福祉教育の中で取り組んだ地域の高齢者施設の皆さんとの交流では、とても温かな時間を過ごすことができ、涙を流して喜んでいただけた。 地域ボランティアの登下校見守り隊の方から、子どもたちの挨拶が良くなってきたと褒めていただいた。 子ども同士の会話の中では、乱暴な言葉が飛び交うことがある。折に触れ、言葉の持つ力を指導していかねばならない。 	<ul style="list-style-type: none"> どの授業でも「かく」ことを大切に、子どもたちが筋道立てて考えられる力の育成に取り組んだ。研究授業の発問・指示・助言等を検討する中で、問題解決型の授業について学びあった。しかし、保護者アンケートでは、「子どもたちに分かりやすい授業を工夫している」の項目では、23%の方が「あまり思わない」「思わない」と回答している。教師の指導力を高めるためにも、積極的な授業の改善や活動内容の工夫に取り組む必要である。 学習タイムや和佐タイムの効果的な活用を考えた。更に充実した時間となるよう取り組みたい。
改善方法【A】 次年度に向けての	<ul style="list-style-type: none"> 学校の情報発信の重要性を認識し、学校や子どもたちの様子がよりよく分かる「学校だより」「学年だより」「ホームページづくり」に努める。 地域との交流や保護者との交流を深める機会を大切に、協力関係を深めていく。 地域に出向き、地域の方の声を聞いたり、学校の様子を伝えたりする機会を多く持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 郷土学習や様々な体験活動を通して、子どもたちは「こころ」を育ててきた。次年度も、自他の生命や人権を大切にする「思いやり」ある子の育成に向け、交流(地域・幼稚園・中学校・異学年等)活動を更に充実させる。 道徳教育、人権教育の充実を図る。 挨拶、掃除、当番・係り活動等、当たり前のことを素直に真面目に取り組む姿を大切にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的生活習慣や家庭学習を身に付けさせる必要がある。色々な機会を生かして保護者に啓発していく。 全国学力学習状況調査の結果から、本校の児童は「読み取る力」の弱さが見られた。読み取る力・言語力は全ての学力の基礎である。次年度は、国語科を通して読み取る力を育て、学ぶ楽しさを実感させる授業の取り組みを進める。 教師の授業力を高めるための現職教育の在り方を探る。

3 その他の課題

- 校務分掌を見直し、組織の更なる充実と簡素化を図る。
- 子どもたちの問題行動は、全教職員が共通理解し全員で取り組む。
- 教師一人一人が、教師力・指導力を高められるように取り組む。
- 教師のITC活用力を高め、児童がITCを活用できる機会を多くする。
- 体育の授業や学校行事を通して、体力向上のための取り組みを行う。